

Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業  
未来価値創造人材育成プログラム  
(b) 科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業  
事後評価結果

大学名	北海道大学
-----	-------

**科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業推進委員会による評価**

**[総括評価]**

A：計画どおりの取組が行われ、本事業の目的は達成されたと評価できる。

**[コメント]**

これまでの取組や卒業生アンケートの結果を踏まえ、現在推進中の産学連携教育や学部と大学院の連結教育等に関するアンケート調査による評価等を踏まえて課題を抽出し、大学院を中心にカリキュラムを検討している点が評価できる。

特に、総合大学であり研究大学である大学として、博士人材に求められる人材像を踏まえた修士課程、学士課程の教育プログラムの設計と構築、そのために必要となる各取組の展開は、科学技術立国である我が国の工学教育改革を牽引するものとして評価できる。

一方、特に数理・データサイエンス関連科目や産学連携科目等については、科目の抽出と評価、課題の抽出にとどまっているため、それらの教育内容を具体化していく取組が求められる。

また、全学における取組と部局における取組を具体的に共有し、相乗効果を生み出していくための工夫が一層求められる。

なお、本フュージビリティスタディ事業を踏まえ、今後は次のような取組が期待される。

- － 新たな主専修・副専修の在り方として5つのモデルを検討し、それらがダブルメジャー制のプロトタイプとしての意義があるとしているが、それぞれのモデルの違いや主専修・副専修の位置づけが明確ではないため、どのような教育プログラムが相応しいのかも含めて、さらに検討すること。
- － PBL を実施するにあたっての課題を明確にし、教育内容や産学の連携体制について、更なる改善を行うこと。
- － 今回明らかになった課題を踏まえて、学部と大学院を連結した教育プログラムの確立に向けた各取組を具体化すること。
- － 総合大学・研究大学における工学教育改革のモデルとなるべく、本事業で得た知見を具体的な形にしていくこと。

Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業  
未来価値創造人材育成プログラム  
(b) 科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業  
事後評価結果

大学名	埼玉大学
-----	------

**科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業推進委員会による評価**

**[総括評価]**

AA：計画を超えた取組が行われ、本事業の目的は十分に達成されたと評価できる。

**[コメント]**

「教育エコシステム推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、産業界との連携体制の強化、工学（メジャー）×経済経営（マイナー）型学士・修士課程連結教育プログラムの策定、情報科学技術教育及び数理・データサイエンス教育の充実、教員の教育業績制度の確立などについて具体的な方策を提示し、一部試行したこと、さらに、今後の実現に向けた体制を構築したことは、高く評価できる。

また、運営拠点大学として、連絡会議の開催やポータルサイトの構築・運営、シンポジウムの開催など、本事業全体の推進に多大な貢献をした点は高く評価できる。

さらに、事業期間終了後もポータルサイトの継続的な運営など運営拠点大学としての役割を継続して果たそうとしている点は特筆に値する。

なお、本フィージビリティスタディ事業を踏まえ、今後は次のような取組が期待される。

- － All in One Campus の特長を活かした文理融合型教育を推進する観点から、分野の異なる学生が相互に学び合う文理融合型の協学に向けた検討を行うこと。
- － 産学連携強化の観点から、実務家教員の教育に果たす役割の明確化や教育力の向上に資する取組を充実すること。
- － マイナープログラムとしての経済経営科目を提供する経済学部との双方向型の取組を行うこと。
- － 長期海外留学などのグローバル化に向けた取組を行うこと。
- － 科学技術の社会実装に向けた教育内容のイメージ、工学×経済経営を修得した卒業生の社会での活躍のイメージを具体化すること。

Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業  
未来価値創造人材育成プログラム  
(b) 科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業  
事後評価結果

大学名	名古屋工業大学
-----	---------

科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業推進委員会による評価

<p>[総括評価]</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、本事業の目的は達成されたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>産学教育連携体制を整備・充実させるとともに、これまでの創造工学教育課程における自律的学習、分野融合的教育、アクティブ・ラーニングによる教育などの学士課程教育の実績を踏まえ、工学全体を俯瞰できる能力を涵養する大学院課程の教育内容を策定している点が評価できる。</p> <p>特に、社会実装教育のモデルとして、より高い水準の産学連携による実践的研究インターンシップや課題研究型授業などの構築を行っていることは高く評価できる。</p> <p>また、産官学教育連携会議において、創造工学教育課程の評価を実施する体制が整備され、PDCA サイクルが確立されている点は評価できる。</p> <p>今後、他大学のモデルとなっていくためには、教育の成果を具体的なエビデンスを示しつつ対外的に説明していくことが求められる。</p> <p>なお、本フュージビリティスタディ事業を踏まえ、今後は次のような取組が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>－ 本事業で構築された教育内容を、創造工学教育課程に留まらず大学全体の工学教育のなかにどのように広げていくのかを検討すること。</li><li>－ 工業系の単科大学として、工学を超えた分野について質の高い学びをどのように充実させていくのかを検討すること。</li><li>－ 工学デザイン科目について、各分野の概論的扱いにとどまらない幅広い工学分野の俯瞰的視野を涵養するために、履修方法等の工夫すること。</li><li>－ 情報分野の教育について、取組を加速させること。</li></ul>

Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業  
未来価値創造人材育成プログラム  
(b) 科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業  
事後評価結果

大学名	金沢工業大学
-----	--------

**科学技術の社会実装教育エコシステム拠点の形成事業推進委員会による評価**

**[総括評価]**

AA：計画を超えた取組が行われ、本事業の目的は十分に達成されたと評価できる。

**[コメント]**

「世代・分野・文化を超えた共創教育」の実現を掲げて実施してきた改革を基礎として、事業推進体制を整備した上で、全学的な情報技術教育の導入、他大学との連携による6年制の工学（メジャー）×○○（マイナー）制教育プログラムの構築、実務家教員の受け入れ・サポート体制の整備並びに産業界との連携プロセスの構築など、実効性の高い取組が展開されたことは、高く評価できる。

特に、全学的な情報技術教育については、開発された3コース14科目が社会のニーズを反映させて体系的に構築されており、先導的な取組として評価できる。

また、実務家教員の役割を明確化した上で、実務家教員を供出する企業との連携体制を密にし、企業と大学の両者にとり有益な取組となるように体制を構築したことは、特筆に値する成果である。

なお、本フュージビリティスタディ事業を踏まえ、今後は次のような取組が期待される。

- － 工学系の単科大学の枠を超えて工学以外の分野の教育を充実させていくために、他大学との連携を深めることを検討すること。
- － 他大学との連携にあたっては、連携先大学の学生への教育効果も含めた相乗効果を把握し、取組のPDCAに生かすこと。
- － 工学系人材育成のグローバル化に向けた取組を具体化すること。